

スクールカウンセラーだより

No. 70

新生野中学校スクールカウンセラー 大和 誠一

保護者にとっても子どもにとってもいろんな思いが交差する夏休みとなりました。東京オリンピックに「新型コロナ」の蔓延と医療危機、そして、長雨による災害という波瀾万丈の夏でした。

私は、家にいることが多くなり、そのため家事も増え、結構こなせるようになりました。

家事で思い出すのが、もう何十年も前のことですが、妻が急の用事で出かけるときに、「洗い物をしておいて。」と言ったときのことです。

一応、完璧に洗って仕上げたのですが、帰ってきた妻が言ったことは、「お鍋もフライパンも洗ってないじゃないの。最後にシンクも洗ってくれないと。」さらに続けて、

「私の思っていることがちっとも分かってない。前々から思っていたけれど、考えていることが私とは違うみたい。」

『え〜』と絶句。性格の不一致・・・

というものではなく、「言葉」の持つ意味が違っているようです。

「洗い物」という言葉には、「食器を洗うこと」という辞書的な意味と「食器だけでなく調理した器具や場所をきれいにすること」という人によって経験から学んだことが含まれているようです。

子どもにとって「勉強をする」という言葉の持つイメージも、人によって違うようです。

「成績が上がるのはいいが、面倒」「疲れる」「つまらない」「意味がない」とまで言い切る子がいます。「成績が上がらないと責められる」「やっても分からないからやる気が失せる」などのイメージを持っている子もいます。

「知識が増えて、楽しい」「知らないことを知るのは、面白い」

勉強を成績とか他の子と比べるとかをしないで純粋に学ぶことが好きな子は、人生の楽しみを増やすことになりますね。どうしたらそんな子に育ってくれるのか、経験が言葉の意味をふくらませるということは、勉強して楽しかった経験を積ませてあげることが大事なのでしょう。



カウンセリングのご案内

日時：毎週金曜日：9月3日は、ありません。10日から

午前10時～午後4時45分

場所：西館3階 カウンセリングルーム

申し込み：事前に教頭先生か担任あるいは直接スクールカウンセラーまで
予約してください

TEL 6757-1421

生徒のみなさんへ

みなさんは、「言葉」について考えたことがありますか？

言葉は、普段何気なく使っていてあまり気にしたことがないと思いますが、とても大事なものです。やさしい言葉に心がいやされたり、きつい言葉で心が傷ついたりしたことがあるでしょう。たかが言葉なのにどうしてそんな力を持っているのでしょうか。

友達と話しているときも、いちいちこの言葉はこういう意味がある、と説明しなくても通じるし、本を読んでも意味が分かります。分かるだけでなく、書かれてある人物がどんな人かも想像できます。行ったこともない土地の風景さえ想像できます。ただの字の集まりであるのにどうしてそんなことができるのか不思議に思ったことはありませんか。

しかし、その反面、あの人の言っていることは意味不明だ、と感じることもあるでしょう。価値観（考え方）が違うとか、感性が違うとかでとらえていますか？

「友達」という言葉で、

（一緒に話したり遊んだりして、楽しい）と思う人

と

（裏切られたので、信用できない）

（人は、みんな自分のことしか考えていないので、友達など存在しない）と否定的イメージを持っている人がいます。

このように、言葉にはみんなに通じる意味と個人が持っているイメージがあります。そのため、何気ない一言で非常に傷つく人がいるのです。

「ウザイ」「だまれ」「死ね」

周りにそんな言葉が飛びかっていると、人を傷つけていることに気づかず使っているかもしれません。

言われた人が嫌だと思ったらその言葉は暴力になります。

大人からこのような言葉を投げかけられ心が傷ついた場合、

心理的虐待ぎゃくたい（いじめ）じどうぎゃくたいぼうしほう（児童虐待防止法）によって大人が罰せられます。

子どもからの場合は、「いじめ防止対策推進法ぼうししたいさくすいしんほう」によってその子と周りの大人が罰せられます。

言葉は、大事なものです。どの言葉を使うかは、自分の判断で決めることができます。間違った使い方をしたときは、法律によって罰せられます。たとえ罰せられなくても、言葉で人を傷つける人は、実は自分を傷つけてしまうことになるのです。ひどい言葉を使う人は、自分を貶めおとしみじめにしているからです。

「言葉」で気になること、また、生活で気になることがあったら、スクールカウンセラーを訪ねてください。

